

会 議 録

会議の名称	平成28年度第7回守谷市行政改革推進委員会			
開催日時	平成28年10月17日（月） 開会：14時30分　閉会：17時20分			
開催場所	守谷市役所 庁議室			
事務局（担当課）	総務部企画課			
出席者	委員	川西会長，佐々木副会長，牛島委員，福田委員，吉田委員 計5人		
	その他			
	市職員	須賀総務部長，古谷総務部次長兼課長，前川課長補佐， 石神企画員 計4人		
公開・非公開 の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 0人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第	1 開 会 2 会長挨拶 3 議 事 （1）外部評価について（報告書とりまとめ） （2）行政改革実施計画執行管理について （3）事務事業評価について （4）その他 4 閉 会			
確 定 年 月 日	会 議 録 署 名			
平成28年10月20日	会 長 川 西 憲 二			

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

外部評価報告書の総合的意見に記載したことが、私が委員会に携わった6年間の感想です。委員会では、しっかりと皆さんの意見を引き出し、それをまとめた上で、効率的に形のあるものにすることを意識していましたが、議論の方向等については、事務局から事前に伝えられることはありませんでした。自由で建設的な論議がなされる非常に良い委員会だと思っています。これは、私たち委員だけでなく、事務局も含めた委員会の活動によるものであり、さらに、事務局だけでなく、市長や市職員の方々にも前向きかつオープンな姿勢で取り組んでいただいたお陰だと理解しています。

市長は代わられますが、今後もこういった姿勢で行政改革推進委員会を進めていってください。

川西会長： 本日の議事につきましては、これまでどおり、皆様からの異議がない限り、氏名を付したままで、意見の内容を議事録といたします。

3 議 事

(1) 外部評価について（総合的意見検討等）

【資料1を確認しながら、追加すべき意見等について協議しました。】

(追加することになった御意見)

- ・ 総合的意見に「市民を味方に付けた（市民参加型）行政活動の加速について」を追加する。市民参加型の行政運営を更に推進し、質的改善に一層の工夫を求めるものである。
- ・ 総合的意見中の行政改革活動全般に対する総括に、⑤として、当委員会の活動に対しての市の取組姿勢を評価するとともに、今後もこの姿勢の堅持、継続をお願いする旨を追加する。

川西会長： 校正等がありましたら事務局で手直しいただき、報告書提出前に委員に御連絡いただくようお願いします。

(2) 行政改革実施計画執行管理について

【資料2に基づき、行政改革実施計画の執行状況等について事務局から説明】

佐々木副会長： 管理表に「進捗状況」の欄がありますが、本当に順調かどうかを私たちが確認できる資料になっていません。課題の記載があっても、

それがどの程度のものかも分かりませんし、課題等の真の原因が明確に見えないので、情報共有ができないのです。いつまでに何をやるか、何をやったかが見えないため、判断するには材料が足りません。管理表は仕事をやりやすくするために作るものであり、作る側にやらされ感を持たせては駄目です。そういった作り方をしていただきたいということは、以前から申し上げています。また、この表を作るに当たって、工数や補足資料を減らす必要性も話してきました。そういったことをきちんとできているのが行政改革だと思いますが、この資料を見ると、その2つの精神が十分に反映されているようには思えません。この管理表を見て、コメントはできません。

川西会長： 「進捗状況」の基準が分かりづらく、遅れている場合にその原因の記載もないため、中身がないように感じます。もう少し検討してください。

佐々木副会長： 「改革の目的・期待する効果」と照らし合わせると、「成果目標」が足りない部分も見受けられます。

福田委員： 実施計画掲載の部分を含めて1枚に盛り込むのではなく、執行管理の状況を裏面にするなど、構成を見直してはいかがでしょうか。

事務局： あえて1枚で分かるようにしたのですが、内容を詰め込みすぎた感は確かに否めません。実施計画の部分は計画書を参照して見比べていただく方法も取れるかと思えます。

牛島委員： 例えば、整理番号2-1では、クラウド化による効率化の部分が管理表からは見えません。事業の目標が分からないのです。

吉田委員： 事業の目的は分かりますが、その目的を成し遂げるための目標が数値化されているものの、その数値が何を意味するのかが記載されていません。それが工程表からも見えてこないのです。執行状況を評価できないのです。成果目標と実施目標は分けて考えるべきで、この混同はこれまで委員会で何回となく指摘してきたことです。

川西会長： 皆さんの意見を受け、改めて事務局で検討してください。

(3) 事務事業評価について

【資料3に基づき、事務事業評価や行政評価の方向性等について事務局から説明】

佐々木副会長： これまでなかった事中評価を導入することになるので、担当者の管理工数が増えると思います。

事務局： 事中評価の内容自体は、これまでの予算編成の過程で潜在的に意識していたことであり、その内容を評価表に記載するのみの作業なので、大きな影響はないと考えています。また、庁内で検討会議を開催し意見を聴取しましたが、その中では、事中評価は予算の裏付けとして活用できるというメリットや、この程度の作業量であれば負担にはならないだろうとの意見をもらっています。さらに、評価表で記載された内容を予算

説明書や決算報告書に展開させていくので、相対的な作業量は増えない見込みです。担当レベルの検討会議だけでなく、次長級の行政改革推進本部幹事会でも内容を確認しましたが、問題がない旨の意見をもらっています。

佐々木副会長： 確認は重要です。その結果で、職員の皆さんが改善に結び付けられると考えているのなら、見直しの価値はあると思います。

資料の中で、現状の問題点として、職員の負担が大きいと挙がっていますが、この問題は改善されるのですか。

事務局： 改善されます。これまでは、年度が終了してから一度に記載する内容が多かったのですが、見直し後は、時期ごとに記載する内容を絞っているので、短時間で作業ができるようになります。また、評価表の作成を本当に評価すべき事業に限定していきますので、全体的な工数は減る見込みです。

佐々木副会長： 今の事務事業全てをこの評価表で管理する必要はなく、予算規模での線引きも必要だと考えます。事業の統廃合を進めて、予算管理と連動してほしいと以前からお願いしてきましたが、その部分はどう対応されますか。

事務局： 統廃合は進めますが、これによって削減される事業数は多くありません。事業数を減らす上では、法律で決められている事業などを、評価から外すことを重点的に考えています。

佐々木副会長： この場で議論しても改善の余地がない事業は、評価から外してください。全体の何割ぐらいを見込んでいますか。

事務局： 4割程度と考えています。

佐々木副会長： 予算規模の小さい事業については、別な管理方法を検討してはいかがですか。

事務局： 金額で線を引くことは考えていません。金額の多少で判断しては、本当にその事業が必要なのかという視点が抜け落ちてしまう恐れがありますので、評価すべきでない判断した事業を外していく予定です。

佐々木副会長： 企画課で中身を精査して、同じ基準で外すかどうかを判断してください。

牛島委員： 評価から外すとすれば、それは毎年ですか、それとも何年かに一度ですか。

事務局： 毎年になると思います。評価の必要がなくなるとすれば、事業そのものが不要ないとも考えられます。

吉田委員： 事中評価や予算との連携など、今までの私たちの議論を良く受け止めていただいていると思います。微調整はあると思いますが、この方向性で進めて問題はないという印象は受けました。

佐々木副会長： 机上だけで改善しようしていないことは理解しました。

牛島委員： 事中評価を潜在的に行ってきたという説明でしたが、それは評価表に

表れない計画工程等から判断していたのですか。

事務局： 予算を要求するために、頭の中で考えていたのみであり、ここまでの精査はなかっただろうと思います。今後は、理路整然と整理ができると考えています。計画工程や進捗状況についても、同じシステムで管理できるように進めています。事中評価の導入に当たっては、事務事業評価の結果を予算編成にいかに関与させるかという視点で、財政課の予算担当とも調整を重ねてきました。今以上に、評価と予算を連動させたいと考えています。事業を管理するツールとして、成果や改善を判断するのが事務事業評価であり、コストを管理するのが予算や決算であるという意識を根付かせたいと思っています。

吉田委員： 職員が慣れるには、時間が掛かりそうですか。

事務局： 事務事業評価を再認識することに時間は掛かるかもしれませんが、記載内容に大きな変化はないので問題ないと思います。

佐々木副会長： 問題点の把握と解決策は、全て自分で対処するものだと考えないでください。解決策は、外に対して手伝ってほしいことを記載するよう指導してください。

事務局： 方向性の大きな部分については、来週中に御意見をいただければと思います。

佐々木副会長： 記載要領については、その都度相談していくことになると思いますが、庁内で合意形成ができているとすれば、後は進めていただくほかありません。

川西会長： 基本的な姿勢は賛成ですが、細かい点も重要になってくるので、引き続き対処して行ってください。どうしたら評価表が記載しやすくなるかということや佐々木副会長が先ほどおっしゃったことなどをマニュアルに記載し、サポートしていただくと良いと思います。様式とマニュアルは十分に詰めてください。

事務局： マニュアルの作成はこれからなので、意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

佐々木副会長： 一昨年に委員会が提出した「事務事業評価の考え方」を参考にしてください。

事務局： 見直しに当たっては、大いに参考としました。

佐々木副会長： 成果が横ばいや停滞なら、改善なくして事業の継続はありえません。成果の方向性と事業の方向性を連動させるようなフォーマットにしてください。

川西会長： 細かい点については、もう少し御質問をした上でないと、意見が出しづらいと思います。大きなところで御意見があれば、来週中にお願いします。フォーマットのことやどこからデータを引用して何と連動するのかといった点については、次回に御説明してください。

(4) その他

■次回の議題について

事務局： 本日、御協議いただいた報告書は、体裁を整えて、委員の皆様にお送りします。内容を御確認いただいた上で、次回、市長への報告書提出となります。ただし、以前に御案内したように、市長に他の公務が既に入っているため、副市長、教育長及び部長職での対応となる予定です。提出後、意見交換を行います。

また、今年度の報告書に別添として添付する外部評価に対する取組状況と事務事業評価の補足事項について御説明いたします。

4 閉 会